

「利用の心得（案）」策定に必要な検討事項について（案）

平成17年度までに検討した「利用の心得（案）」のうち、引き続き検討を要する事項について基本的考え方を整理・検討するとともに、可能な範囲で内容の明確化を図る。ただし、利用調整に係る事項については各関係機関の間で検討する段階で、必要に応じて変更するものとする。

「利用の心得（案）」において引き続き検討を要する事項及び検討目標（案）

課題等	検討目標
[基本的取扱い等]	
1. 立入の抑制程度	<p>(未決定事項) 「現状程度以下」の具体的内容</p> <p>(検討方針) 利用実態調査（カウンター調査）、入林届等のデータにより、利用形態別の立ち入り人数・日数の目標等の記述の明確化をはかる。</p>
2. 野営地・場所の考え方	<p>(未決定事項) 場所指定の可否等、基本的な方針</p> <p>(検討内容) 取扱いの基本的方針を確定するとともに、記述の明確化を図る。</p> <p>(例-1) 全ての利用形態において「野営地・場所」を特定しない（決めない）で、具体的な「野営禁止地区」を指定する。</p> <p>(例-2) トレッキング、カヤッキング利用では「野営地・場所」を決め、山岳部利用では決めない。</p>
3. 河口部サケ・マス釣りの「場所」と「釣り場区域」の特定	<p>(未決定事項) 具体的な場所・区域</p> <p>(検討内容) 調査データ及び関係者等の合意を踏まえ、場所、区域を特定する。</p>

「場所」

(例-1) 利用頻度の高い「モイレウシ川」「ペキン川」の2箇所

(例-2) 利用実態のある「モイレウシ川」「ペキン川」「二本滝」「クズレ浜」の4箇所

「釣り場区域」

(例)『河口の両側各〇〇メートル以内の海岸線』

*立入人数と連動し、例えば1箇所10人までとした場合、片側各5人ずつ、釣り人の間隔を5mと想定し、『河口の両側各25m以内の海岸線とする。』となる。

[整理・取りまとめ事項 等]

1. 事前情報の入手（事前レクチャー）方法に関する検討

(1) 安全管理に関する情報

- 海岸部高巻き・徒渉箇所の状況
- 海域の岩礁・浅瀬の状況
- 潮の干満・風波等の気象状況
- 観光船等他の船舶との影響回避対策
- ヒグマに関する未然防止対策
- その他

(2) 利用に関する情報

- 野営に関する注意事項等
- 潮待ち場所等の状況
- 出発地と帰着地の場所
- 上陸場所の適否等
- その他

(未決定事項)

提供すべき情報の内容及びその提供方法

(検討内容)

以下の調査資料等により、整理・取りまとめを行う。

- (1) 平成14年度自然公園における生態系特定管理施策検討調査（知床国立公園）報告書
 - ① 4-2 知床岬周辺地域の利用状況に関する山岳団体へのアンケート調査について
 - ② 補遺2 知床岬方面へのトレッキング及びシーカヤック利用を想定した場合の危険箇所や野営指定候補地の検討について
- (2) 平成15年度知床国立公園適正利用基本計画検討調査報告書
 - ① 第1部 3 野営地・風待ち地の状況
- (3) 平成16年度知床国立公園適正利用検討調査報告書
 - ① 資料4 知床半島先端部地区における海岸野営地等に関する調査報告書
 - ② 資料-5 知床岳地区の利用状況及びルートに関する調査報告書

<p>2. 計画書の提出及び帰着後の報告に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画書の様式・記載内容等 ○帰着後の報告内容等 	<p>(未決定事項) 具体的様式・記載内容</p> <p>(検討内容) 計画書及び報告書の様式、記載事項・内容等の詳細について検討し様式、記載要領等を作成する。</p>
<p>3. ヒグマ対策の観点から立入を抑制する地域の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ルシヤ地域(ルシヤ川河口付近を中心にウプシノッタ川からタキノ川に至る地域) 	<p>(未決定事項) 具体的区域</p> <p>(検討内容) ルシヤ地域の範囲について、図面等により明示する。</p>
<p>4. 野営を抑制する地域についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知床岬灯台から半径2 km以内の範囲 ○ルシヤ地域 ○知床沼周辺 	<p>(未決定事項) 具体的区域</p> <p>(検討内容) 各地域の範囲について、図面等により明示する。</p>